茶屋ヶ坂東洋医学研究院　項一 雅子院長

母国･中国で臨床を学び、祖国･日本で治療と治療の喜びを学びました

なでしこ力

項一 雅子さん

医療法人涼真会の理事として、また中部日本華人企業家協会の会長として中部エリアの日中の、その他東洋、西洋の様々な疾患の患者のために忙しく働く。著名な経済人、医療従事者も患者として多い。

患者に「神の手」と称される項一雅子先生。行っている治療は漢方治療と鍼灸治療によるものである。

６０歳を超えても、毎日多くの患者の治療を行っており、その真摯な姿勢にはどんな医師にも負けない情熱が感じられる。中国・上海で生まれ育ち医学の道に進み、当時勤務していた上海中医薬大学附属病院では、日本の病院での総合診療科に相当する総合外来の主任を担当。また、伝統ある鍼灸経絡研究所の若手の精鋭として研究と治療にまい進していた。そんな時、病院当局から「一年限りの条件で、日本で漢方治療の指導をやってほしい」と懇願され、９０年代初めに漢方医師として初来日した。ところが１年の約束が２年３年……と、どんどん伸び、５年目には日本国籍を取り、日本で医療に携わり続けた。１０年が過ぎ、名古屋市千種区の茶屋ヶ坂東洋医学研究院を開院した。

「私は母国・中国で基礎と臨床を学び、祖国・日本で治療と治療の喜びを学びました。日本は大好きです」

その実力は中部エリアではよく知られており、高い評判は多くの著名人や経営者にも知られることとなった。項一院長を頼りに治療に訪れている患者の中には「体調が悪く、どうにもならないという時に行く病院です」と語る経営者もいるほどである。

医師としての高い評判は中国でも知られることとなった。習主席は中国の伝統医学である漢方治療を重視しており、２年程前には中国の厚労省ら視察団が同研究院に派遣された。中国政府として認定する施設は日本では２ヶ所だけで同研究院はその一つとなった。そのため、昨年１０月に北京で開催された「中国建国７０周年記念式典」にも招待された。列席者数千人のうち、日本在住の中国人医師はわずか数人。その中の一人として項一先生が招請されたのである。

中国医療と西洋医療の両方に精通している項一先生は、画像診断等では見つけられないような病変も東洋医学的な診断では見つけられることもあり、診断能力の高さ、力量が知れ渡るよ